

遺跡紹介

新田・本村遺跡

－高松市新田町－

今回紹介する新田・本村遺跡は、1996年12月～1997年3月と1997年10月～12月の2回に分けて発掘調査が行われました。場所は古高松南小学校から東に約500m行った所で、通称新田街道と都市計画道路室町新田線との交差点の西側です。

遺跡の西方には新川の氾濫による砂の堆積が厚く、人は住んでいなかったと思われます。東方は山になっており、遺跡付近は東側へ緩やかに高くなる傾斜地です。

調査の結果、弥生時代の終わり頃から江戸時代に至るまでの長期間にわたる多数の遺構や遺物が発見されました。その詳細は次のページで説明します。



「国土地理院発行の5万分1地形図(高松南部)の一部を掲載」



写真1 全ての調査が終わった遺跡です。上空からヘリコプターで撮影しました。写真の左側が西であり、屋島は上にあたります。

(1) 江戸時代

遺跡の西端部において、今の水田のすぐ下から江戸時代の水田面が3面確認されました。水田には南北・東西に走る^{すきあと}犁跡が多数残っており（写真2）、米作りには絶対必要な水を通すための用水路も見つかりました（写真3）。他に井戸や肥料溜め用の穴もあります。



写真2 等間隔にある犁跡



写真3 南北方向に延びる2本の溝



写真4 わずかな湧水のある井戸



写真5 出土した石臼

(2) 古代～中世

この遺跡で最も遺構・遺物が多く、中心的な存在をなしています。遺構は全域に分布しており、主なものとしては、15棟前後の掘立柱建物跡（写真8～11）・柱の穴（写真18）・溝・井戸・やや大きな穴（写真17）などがあります。特に、条里地割の基準線と考えられる大規模な溝（写真13～16）は注目されます。

出土した遺物は、コンテナ箱で約100箱以上あり、その大部分は土器です。さらに、瓦や中国から輸入された珍しい磁器・網の錘^{おもり}・イイダコ壺・製塩土器なども見つかりました。



写真6 完掘した状況



写真7 完掘した状況



写真8



写真9 8は掘立柱建物跡の完掘状態で、9の写真の人がいる穴に柱が立っていました。



写真10 大規模な掘立柱建物跡



写真11 残っていた柱材

よらやま
四方山話 その一

発掘調査の七つ道具

発掘と言えば「竹べらとハケ」をまずイメージしますが、実際には体力を使う作業から細かな作業までいろいろあり、それに応じた道具があります。一般的な発掘では下にあるような道具が使われます。ベテランの作業員さんは、掘りやすく工夫した手作りの道具を持っています。



写真12 発掘調査の様子



スコップ



ジョレン



手箕



移植ゴテ



手ガリ



ハケ



竹べら



写真13 大規模な溝



写真14 左の溝から出土した土器・瓦



写真15 東端の大規模な溝



写真16 現地表から約2 mの深さを測る溝の断面



写真17 土器がまとまって出土した穴



写真18 柱の穴には柱が沈まないようするため、底に石を置いている場合があります。

(3) 弥生時代

遺構としては非常に少なく、数本の溝（写真19）と数個の穴があるのみです。その検出された位置は東側の山寄りの若干高くなっている部分であり、当時の海岸線を考える上で貴重な資料であります。溝からはほぼ完全な形の土器が数点出土しました（写真20）。



写真19 溝



写真20 溝から出土した土器

よもやま 四方山話 その二

発掘調査には大勢の人々が参加されますが、その殆どは農家のおじいさんやおばあさんであったり、定年退職された方々です。年はとっていても、体力・気力共に強靱であり、皆さん スーパーマン・スーパーウーマンです。



写真21 発掘調査の様子



写真22 発掘調査の様子



写真23 発掘調査に参加された方々

出土した遺物 その後・・・

発掘調査で出土した土器などの遺物は、その後どうなるのかご存じですか。

遺物は丁寧に水洗いされ (①)、破片は1個ごとに番号を書き入れます (②)。割れた破片をくっつけて元の形に復原し (③)、不足する部分は石膏を入れます (④)。次に形や模様を忠実に測って図化します (⑤)。写真撮影をします (⑥)。最後は1冊の本になり (⑦)、一部は資料館等に展示されます (⑧)。出土した遺物は、高松市教育委員会で大切に保管されます。



①洗い



②注記



③復原



④石膏



⑤実測



⑥写真撮影



⑦報告書



⑧展示

空中写真に見る高松の歴史

大空を舞う鳥になった気分で、下の写真をご覧ください。何が見えますか。

まず目に入るのが、碁盤目状に整然と区画された水田と道です。これは条里地割といわれるもので、一辺約109mを基準とした古代の土地区画です。

方形の水田の中に不規則な区画の水田が帯状に見えます（A～F）。これは昔に川が流れていたところであり、よく見ると、AとB～Fの2本の川の流れています。そして、江戸時代にはB～Fの川を利用したため池（②～④）が作られていました。

右下には旧高松空港の滑走路と区画の方角の違う水田（①）が見えます。この部分は昭和19年に造成された陸軍の高松飛行場の跡です。

このように1枚の空中写真の中にも、古代～近代の高松の歴史を見ることができます。

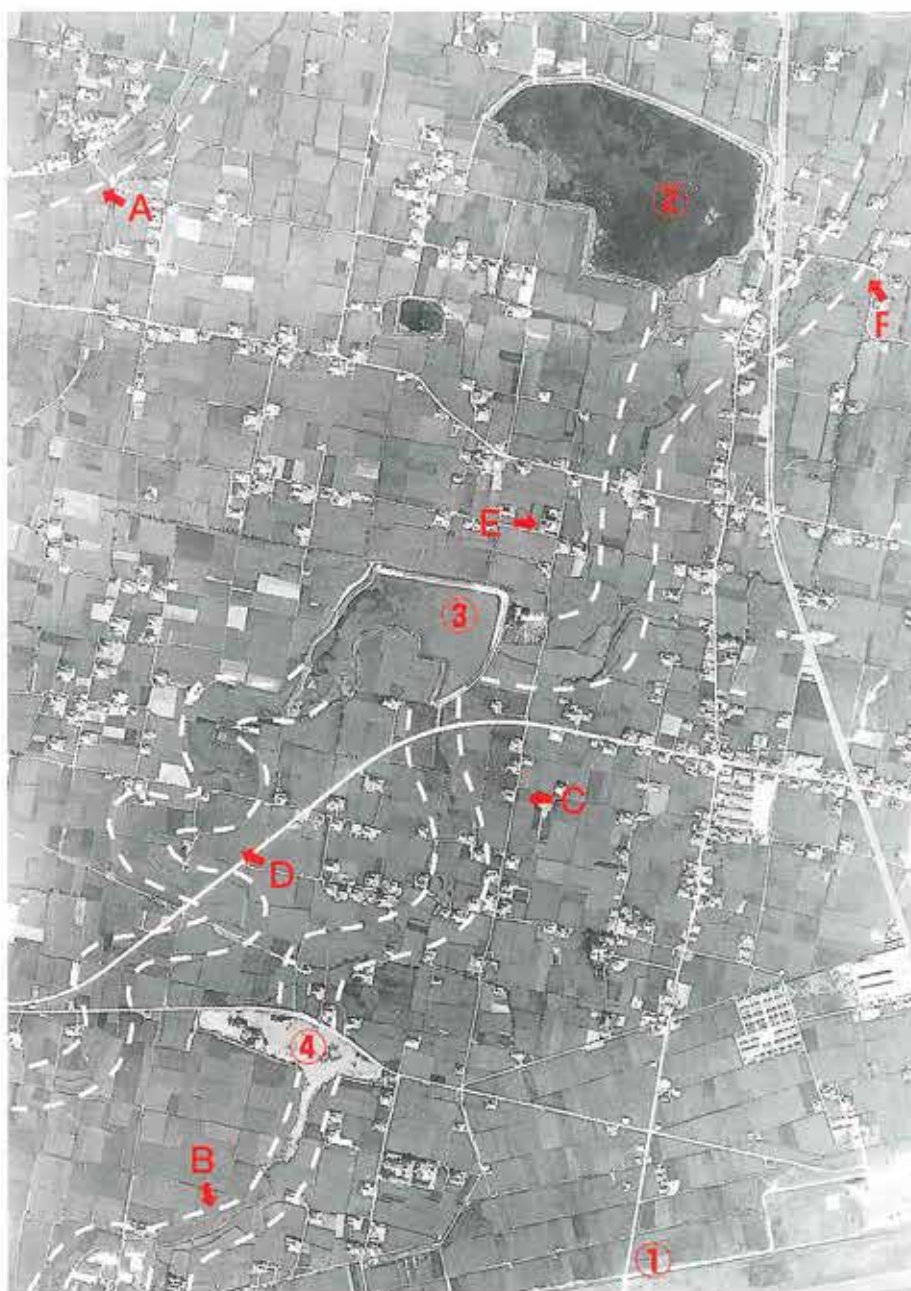


写真24 林町・多肥下町・多肥上町付近の空中写真

ようせき

【片山池1号窯跡】を一般公開

1994年に行われた発掘調査によって、片山池1号窯跡は今から約1300年前の白鳳期の窯跡であり、隣接する坂田廃寺の瓦を焼いていたことがわかりました。その保存状態が非常に良く、1996年に市指定文化財に指定されました。

今年の春に窯跡の保護と一般公開を目的とする保存施設が完成しました。窯は薬品による強化保存処理が行われました。覆屋は窯全体を覆う建物で、中に入ることはできませんが四面に窓があり、窯跡を見ることができます。

見学は自由にできますが、私有地の中にありますのでご迷惑をかけないように心がけてください。



写真25 発掘調査



(所在地：県営西春日団地の南端道路を西へ約300m)



写真26 完成した覆屋



写真27 保存処理された窯跡

編集後記

最近「〇〇遺跡で××出土」という話題がマスコミを賑わしています。そういう意味で発掘調査は市民権を得ていると言えます。しかし、その後の整理作業は殆ど知られていないのが実情です。考古学では、整理作業は発掘調査と同様に重要な位置を占めています。あまり目立ちませんが、整理作業にも注目してください。埋蔵文化財はたくさんの人々の協力のもとに守られています。(N)

むかしの高松 第10号

1998.12.1

編集発行 / 高松市教育委員会文化部文化振興課
高松市番町一丁目8番15号

☎087-839-2636

印刷 / 株式会社成光社